第６次新宮町総合計画後期基本計画
及び
第３期新宮町まち･ひと･しごと創生
総合戦略（素案）

令和８年３月

町長あいさつ

令和８年３月

新宮町長　　桐　島　光　昭

新 宮 町 民 憲 章

わたくしたちは、新宮町が自然と調和した明るい豊かな街に発展することを願い、この憲章を定めます。

一．立花山の勇姿を仰ぎ緑豊かな町にします。

一．ふるさとの歴史と伝統を受けつぎ新しい文化豊かな町にします。

一．玄海の自然と幸に感謝し豊かな心身を育む町にします。

一．さわやかな人情豊かな福祉の町にします。

一．知識を深め勤労をよろこび豊かな産業の町にします。

平成５年５月１日制定

【町章】	昭和 52 年（1977 年）８月、公募（広く人々から募集した）作品のなかから選ばれました。町章の構図は新宮の頭文字「シ」を図案化したもので、左上の２つの丸い点は町の特産である立花ミカンを表しています。またこれを囲むような円は玄界灘の跳ねる魚をかたどっています。		
【町花】	＜みかんの花＞ 立花山一帯は「立花みかん」の産地で５～６月ごろに真白で五弁のかれんな花を咲かせます。	【町木】	＜クスノキ＞ 特殊な芳香をもつ常緑高木で立花山に自生する原生林は国の天然記念物に指定されています。
【町鳥】	＜メジロ＞ 眼の周囲の白い輪が特徴で、温暖な地域に生息しています。活発に動き鳴き声も美しい鳥です。	【町木】	＜松＞ 古来から長寿の象徴で、海岸線に防風、防砂林として多く植林され「白砂青松」の景観をつくっています。

目　次

編集中

SHINGU
TOWN

序 論

1 総合計画後期基本計画策定の趣旨

新宮町では、平成23(2011)年度に10年間を計画期間として第５次総合計画を策定し、「人が輝き　快適に暮らせる　元気なまち　新宮」をまちの将来像に掲げ、その実現に向けて総合的かつ計画的にまちづくりを進めてきました。この間、JR新宮中央駅の開業や大型商業施設の進出、マンション・戸建住宅などの建設による急激な人口増加など、町の姿が大きく変化しました。これらの変化に対応するため、平成27(2015)年度に将来予想人口の見直しや都市空間形成の方針変更など基本構想の見直しを行いました。

今後の10年間では、新たな開発の動きもあり引き続き人口は増加する一方、地域によっては高齢化や人口減少が進み、住民ニーズや地域課題の多様化など、行政運営は一層厳しくなることが見込まれます。その後は令和22(2040)年頃をピークに人口は減少し、特に20年後から30年後には超高齢社会へと向かう大転換期を迎えることが予想されます。

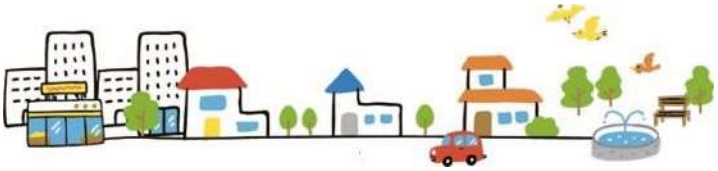
そのため、今後の町の姿やあり方をしっかりと捉え、それに相応しい基本理念や将来像を定義するとともに、今後10年間の取り組みとして、『20年後や30年後の社会情勢などを踏まえた準備期間としての方向性』と『引き続き発展性のあるまちづくりに対応した方向性』の２つの視点で整理した令和３(2021)年度を始期とする、第６次新宮町総合計画を策定しました。

後期基本計画の策定にあたっては、町の置かれている現状を十分に認識し、前期基本計画の進捗状況や新たな課題を的確に把握・整理し、作成しました。

2 総合計画の位置づけ

総合計画は、まちづくりを進めるうえで最も上位に位置づけられる計画であり、まちづくりの目標とその実現に向けた方策を示しています。先に述べたように、今後10年間は、将来、町を取り巻く環境の大きな変化に対応するための準備期間として捉えており、20年後、30年後を見据えた将来的展望に立った策定を行っています。

なお、本計画は、まち・ひと・しごと創生法（平成26年法律第136号）に規定する地方版総合戦略（新宮町まち・ひと・しごと創生総合戦略）としても位置づけ、一体で取り組んでまいります。



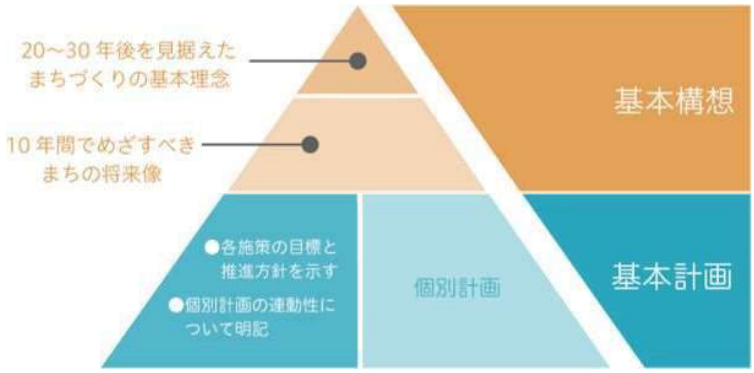
3 総合計画の構成と期間

基本構想

基本構想は、『20 年後や 30 年後の社会情勢などを踏まえた準備期間としての方向性』と『引き続き発展性のあるまちづくりに対応した方向性』の２層構造を基本としており、計画期間の 10 年間は、長期を見据えた、将来に責任を持った持続可能なまちづくりを実現するための準備期間と位置づけています。

基本計画

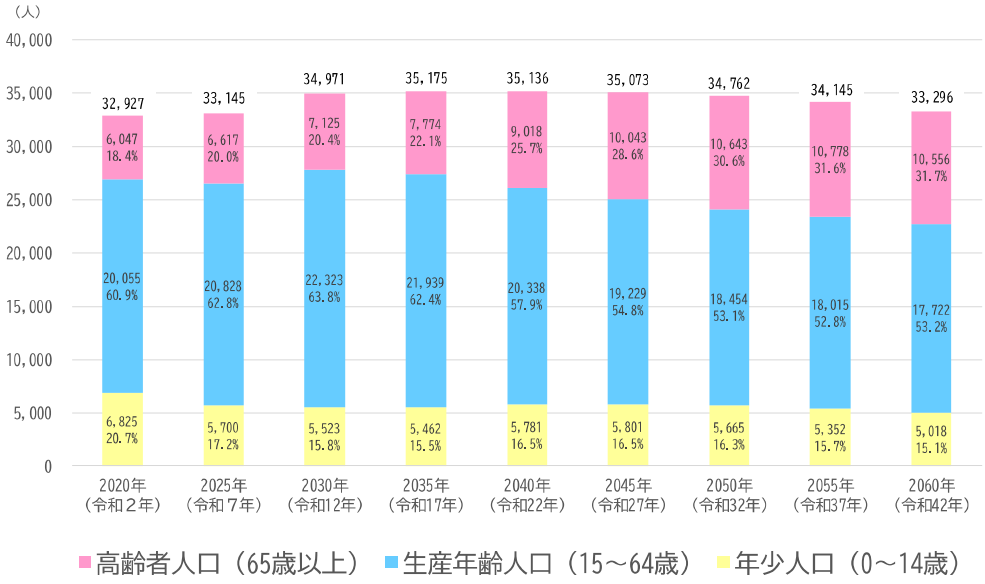
基本計画は、基本構想に掲げる目標の実現に向け、町が取り組むべき事業の方向性や施策を示すとともに、わかりやすい計画を心がけ、５年ごとに見直します。また、住民の役割や施策の達成度、個別計画との連携についても明記します。



4 まちの将来人口

第３期新宮町まち・ひと・しごと創生総合戦略人口ビジョンの人口の予測は、各分野の基本計画を推進していくうえで根幹的な指標となるものです。全国的に人口が減少傾向にある中で、町の人口は大規模な宅地開発や分譲マンションの建設を受け、結婚を契機とした若年層や子育て世代の転入などにより増加を続けています。しかし、人口増加の大きな要因であった開発もピークを越え、令和 17(2035)年まで人口が増加したあと横ばいが続き、令和 22(2040)年頃から徐々に人口が減少に転じることが予想されます。

人口の増加傾向を考慮し、基本構想の目標年度である令和 12(2030)年の将来人口を 34,900 人と想定します。



資料：第３期新宮町まち・ひと・しごと創生総合戦略人口ビジョンより